

建設業と地域の元気回復助成事業

阿東町

地域の元気を回復しよう
山口県阿東町地域活性化協議会は、やります！

高原の町、山口県阿東町の主な産業は農業と建設産業。涼しい気候を利用した特産品には阿東米やりんご、なしがあり、長門峡などの観光スポットも人気があります。それでも近年、高齢化や経済状況の悪化などの影響は大きくなる一方。何とか町を盛り上げようと、阿東地域の6社が一丸となって町おこしに取り組みることになり、その事業は、国土交通省の公募した「建設業と地域の元気回復助成事業」に選ばれました。

■日本全国から応募のあった240件から
助成対象事業に選定された阿東地域

農業・観光業を主産業とする山口県阿東地域も、日本全体のかかえる不景気や高齢化の例に漏れず、厳しい状況にさらされています。

農業では、若い年齢層が流出してしまい、農業従事者の平均年齢は上がるばかり。町全域が特定法人貸し付け事業の実施地区に指定されるほどの後継者不足に悩んでいます。

建設産業では、受注件数が減少することによって、保有機械の稼働率が下がり、機械の保有もオペレータや作業員の雇用が維持できない状態です。

十種ヶ峰、長門峡、願成就温泉などが知られ、県内外から年間延べ80万人を集



客していた観光産業も、山口県内の秋・津和野・山口といった有名な観光地に隣接しているにもかかわらず、観光客数が伸びないという現状。

こうした問題を打破しようと、阿東地区は、J A山口中央・建設業・観光協会・商工会等が連携して取り組み、「休耕田等を利用した油糧系景観作物の栽培・商品化による町の新しい特産品開発と観光振興に関する事業」と名づけた事業計画を立ち上げました。

そしてその取り組みが、平成21年6月、国土交通省総合政策局建設市場整備課建設産業振興室の募集した「建設業と地域の元気回復助成事業」に、見事、選定されたのです。

■町おこしのために立ち上がった
山口県阿東地域活性化協議会とは

農業を主体とした町おこしとひと口に言っても、地域の各産業が手をたずさえて全体的に機能するのではなければ、実現は難しくなります。さまざまな課題を解決しようと、人材や資材のノウハウをもつ建設産業と、営農ノウハウをもつ農業関係者、町の観光政策をになう観光協会がチームアップすることになりました。

事業の実施には、以下の団体が協力して山口県阿東地域活性化協議会を形づくっています。

情報提供や指導助言・調整等に当たるのが、山口県土木建築部、山口農林事務所、阿東町産業振興課。

営農・販売面での連携および栽培指導に当たるのが、J A山口中央阿東営農センター。

観光振興面での連携に当たるのが、あとう観光協会。

商品化・販売面での連携に当たるのが、山口県商工会阿東支所。事業管理者となるのが、山口県建設業協会。

関連機関、団体、企業との調整に当たるのが、山口県建設業協会阿東支部。

事業推進には、(株)吉岡組、(株)田組、(株)三戸建設、(有)長安建設、池田建設工業(株)、(有)阿武組が取り組みます。

■地域の元気を盛り上げるための企画を着々と実行へ

油糧系景観作物とは、菜の花やひまわりなど油が採れ、視覚的にも美しい作物。これらを栽培・商品化していくうえで、農地と水の確保、栽培マニュアルの制作、観光農園化への取り組み、観光PR活動など、さまざまな課題が出てくるのは当然のこと。まずは試作を実施し、さらに改良・充実させ

ていくことが必要になります。

栽培地の選定ひとつ取っても、十種ヶ峰、長門峡、S L山口号など町内の観光資源との相乗効果をはかる要素をプラス。さらに、栽培を自立的・継続的なものとするために、栽培の基本的知識や技術を習得していきます。計画に発展性を持たせる意味でも、作物の利



平成21年10月～ 農地再生工事着手前



平成21年10月上旬 試行実施地の草刈り・野焼き



平成21年10月中旬 重機による開墾とトラクターによる圃場の整備



平成21年10月下旬 圃場への肥料散布と種蒔

用法を、食用としてだけでなく、バイオディーゼル燃料(BDF)として、飼料や堆肥としてなど、さまざまな角度から検討しています。また、油糧系景観作物による町おこしの先進地を視察して、阿東町の事業に活かすことも重要です。

具体的には、すでに菜の花の栽培が開始されており、平成22年4月には菜の花、9月にはひまわりを収穫し、地元の加工業者などと連携して、商品の試作にまでこぎつける予定で、具体的には食油、調味料、そば、調理品などの二次製品への展開、BDF、飼料としての菜種粕や肥料への利用などが考えられています。

補助事業終了となる平成23年度には、栽培・活用ともにノウハウを習得し、阿東町地区での基本的な事業の仕組みを構築。農業生産法人の立ち上げを目標としています。

これら段階を踏んだ事業の実現により、観光客の数を増やし、休耕田の解消へとつなげ、事業多角化により建設業界の需要も増やすというように、大きな躍進をめざす山口県阿東町地域活性化協議会の取り組みは、山口県においても地域が元気を取り戻すさきがけとなってくれることでしょう。

発案者で中心的な役割を果たす

(株)三建設代表取締役社長 三戸剛さん



「低迷する建設業を何とかしたい」という危機感はあるが、

ノウハウや準備資金がなければ、新しい分野に進むことは難しい。そこへ「地域の元気回復助成事業」の話が来たんです。

ご存知のように阿東町には高齢化などのため休耕田が多くある。そうした農地をまとめて何か事業ができないか、そう思いました。

今後の発展性についてはまだ模索段階ですが、景観作物を製品化してコストを回収していくこと、観光振興によって、道路を広くするなど建設業にもつながるといふ、二つのリンクを指したいと考えています。

(社)山口県中小企業診断協会のバックアップ

(社)山口県中小企業診断協会副会長

中小企業診断士 原義夫さん

建設業は、都市部であれば介護や環境など他のサービスとつなげ



て展開していくことができますが、田舎では農業がメイン。そうなる、新事業を立ち上げる場合、手間がかからない、普段の農作業や建設業務の合間にできるものを選ぶことが大事です。

その点、菜の花やひまわりであれば他に成功している事例もあるため、手がけやすいのは確か。助成によって2年間という時間を与えられているのだから、まず農業生産技術の確立が第一で、そこから付加価値のある製品を作り、収益の上がるビジネスモデルへと進めていきたいですね。